

## 【院長挨拶】

9月16日より東住吉森本病院院長に就任致しましたので、ご挨拶を申し上げます。また10月より、地域医療連携センター長が辻口部長から坂上部長に変更となりました。センター創設の初代から二代目にバトンが渡りましたが、ますます地域の皆様との間の橋渡しに尽力させていただきますので宜しくお願い致します。



病気やけがはいつ起こるか判りません。救急・総合診療部門では、24時間地域からの要請に対応できる体制を取っております。さらになんや脳血管疾患、心疾患など、日々遭遇する可能性のある疾患を早期に発見して対応できる専門診療の体制も備えています。急性期病院としての機能を発揮して病状が落ち着かれた患者さんは、出来るだけ早く住み慣れたところへ戻れることを目標にまいります。地域の診療所や療養型病院あるいは回復期リハビリテーション病院との病診、病病連携はもとより、介護療養施設や訪問看護ステーション、行政機関との連携により、地域で患者さんの健康を守り、ご家族を支える体制づくりを目指してまいります。いざという時に地域の皆さんから信頼される病院でありたいと考えます。

寺柿 政和

## 【地域医療連携センター長新任の挨拶】

いつも当センターをお引き立て頂きありがとうございます。当院の地域医療連携センターを創設いたしました辻口センター長が本年9月末日定年を迎え本役職を退任となりました。後任は坂上部長が勤めさせていただきますので引き続きよろしくお願い致します。



さて、ご存知のとおり社会の高齢化は、深刻な問題となっており、地域医療支援病院である当院も患者様の入退院に関しては、日々多くの問題に直面しております。そこで昨年は、これらの問題を整理するために「地域医療連絡室」「医療相談室」「がん相談支援センター」「広報室」「ベッドコントロール室」を組織的に統合し、より機能的な活動を行えるよう整備を行いました。また、今年度は、より高い医療の質を確保するために既に稼働しております新規アンギオ装置の導入やこれから予定しております画像管理システムの更新など診療の環境もより良いものへと整備が進んでおります。

地域医療支援病院として“医療・介護のシームレスな連携”と急性期病院としての“医療の質の確保”をどのようにバランスよく実践出来るか？大きな課題ではありますが、地道に取り組んでゆきたいと思っておりますので何卒よろしくお願い致します。

坂上 祐司

2012年11月から定期的（祝日除く第2・4金曜日）に当院で開催している「がん患者サロン」についてご紹介いたします。

療養生活が長期化してくると、がん患者やそのご家族は病気そのものよりも社会復帰のこと、経済的なことなど、生活についての悩みも多くなり、誰に相談したらよいか分からず、孤独感が深まる原因になることがあります。その人らしく生きていくためには、医師や看護師等の医療従事者によるサポートだけでなく、共通の悩みや経験をもつ人同士が、同じ立場で対等に話し、聞きあえるピアサポートも効果的だといわれています。「がん患者サロン」は、同じ立場の人が、がんのことを気軽に本音で語り合う交流の場のことをいいます。最近では、がん診療連携拠点病院や公民館などに患者サロンを設置する病院や自治体もふえています。そのため、運営の仕組みはさまざまで、患者やご家族が主体になっているところもあれば、医療者を中心に活動しているところもあります。当院の場合は、前回の連載で紹介させて頂いた緩和ケアチームのメンバーが運営を担っております。

気軽に利用して頂きたいのですが、利用するときの心構えと注意点があります。当院でも初参加の方には、「～サロンでの約束事～」と題した資料を配布しております。支え合いの場では、診断されたときの不安や療養中の悩みなど、同じような体験を持つ人だからこそわかることを共有したり、具体的な対応策を伝え合ったりする利点があります。しかし同じがんであっても、個々人で治療内容や療養生活の状況は異なります。自分に効果的だったからといって、他の人に無理強いをはいけません。また、医学的なことは、必ず主治医に相談するようにしてください。

\* 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービスより一部引用

ではここで、当院「がん患者サロン」に参加された方の声を一部ご紹介いたします。

- ・ 50歳代女性、大腸癌の夫を支える妻、「近くにこんなないか、ずっと探していたんです。1人では抱えきれなくて・・・患者さんの正直な話が聞けてよかったです」
  - ・ 50代女性、肺癌患者、「しばらく落ち込んでいたんですが、何か生きがいを見つけなきゃって思いました」
  - ・ 60歳代男性、膵臓癌、「同じ膵臓がんの人がおったらもっと良かったなあ」
- 同じ立場にある人の話を聞くことによって、「悩んでいるのは自分だけではない」と感じられたり、「同じような問題を抱えている人がほかにもいる」ということがわかるだけでも、気持ちや和らぎます。さらに、今度は自分がほかの誰かの力になれるということを知り、社会の一員という自覚を取り戻すきっかけになるともいわれています。

最後に、当院「がん患者サロン」の本年度の予定をお伝えします。1階応接室で開催しています。事前申し込みや参加費などは不要です。また、途中入場・途中退場も可能ですので、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

日時	予定内容	日時	予定内容
11月11日（金） 13時～15時	フリートーク	11月25日（金） 13時～15時	管理栄養士による ミニレクチャー
12月9日（金） 13時～15時	フリートーク	——	——
1月13日（金） 13時～15時	フリートーク	1月27日（金） 13時～15時	看護師による ミニレクチャー
2月10日（金） 13時～15時	フリートーク	2月24日（金） 13時～15時	医療相談員による ミニレクチャー
3月10日（金） 13時～15時	フリートーク	3月24日（金） 13時～15時	薬剤師による ミニレクチャー

## 地域医療連携センター長退任の挨拶

診療部 顧問 辻口 幸之助

日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、皆様方はお変わりなくお過ごしのことと存じます。

私は、平成26年3月に新しく創設されました地域医療連携センター長を拝命いたしました。本年9月末日をもちまして地域医療連携センター長を退任させていただくことになりました。それは、この9月に私が還暦を迎えたことによります。在任中は、地域の先生方・地域医療連携センタースタッフ・関係者各位にはいろいろお世話になり、本当にありがとうございました。

当院では、私の力不足のため、まだまだ地域医療連携センターとしての機能を充分発揮するには至っておりませんが、今後は新任の坂上祐司センター長を中心として、より良い病々連携・病診連携が得られるよう、今まで以上に全力で取り組んでいただけるものと思っています。

私は、10月1日より診療部顧問医として、今までと変わりなく勤務し、形成外科診療に携わっております。こちらの方も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。本当にありがとうございました。



## 形成外科医長就任の挨拶

形成外科 医長 安形 省吾

当院の形成外科は、2000年7月の開設以来、辻口旧部長を中心に運営させていただいておりましたが、この10月をもちまして私、安形省吾が引継ぎ、当科の診療責任者として担当させていただきます。診療は今後とも辻口診療部顧問とともに2名で行って参ります。

専門は、頭蓋・顎・顔面外科領域ですが、当院では外傷を中心に大部分の形成外科疾患に対する診療を行っています。

形成外科で取り扱う疾患の項目を具体的にあげてみますと、次のように分類できます。

1. 新鮮熱傷（やけどの治療-皮膚移植などの手術、その他やけどの傷跡の治療）
2. 顔面骨骨折・顔面軟部組織損傷（切り傷の縫合～顔面骨骨折の手術）
3. 口唇裂・口蓋裂（口唇裂は生後3か月、口蓋裂は生後1.5歳頃に手術）
4. 手・足の外傷、先天異常（外傷・巻き爪他・合多趾症などの先天異常の手術）
5. その他の先天異常（顔面では、目“眼瞼下垂”、耳“副耳・小耳症・その他の耳の奇形”、鼻など、腹部では出臍などの先天異常の手術をします。）
6. 母斑・血管腫・良性腫瘍（皮膚にできているほくろやできもの、体表から触れられる腫瘍は形成外科で手術しています。）
7. 悪性腫瘍およびそれに関連する再建（皮膚癌の手術など）
8. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド（傷跡の修正手術）
9. 難治性潰瘍・褥瘡（糖尿病や低温熱傷などの潰瘍の保存的治療から手術、床ずれの治療）
10. 美容外科（二重まぶたやしわとり・コラーゲン注入、しみの治療など）

当院では、原則として美容外科の手術は行っておりません。しかし、美容外科は形成外科の一分野です。お気軽に御相談下さい。

以上のように頭の前からつま先までの身体外表の外科手術を行っております。もちろん、手術が必要のない患者様には保存的治療を行っています。地域の医療機関の先生方には、お気軽にご紹介いただければと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。



■インフルエンザ流行シーズンに向けて

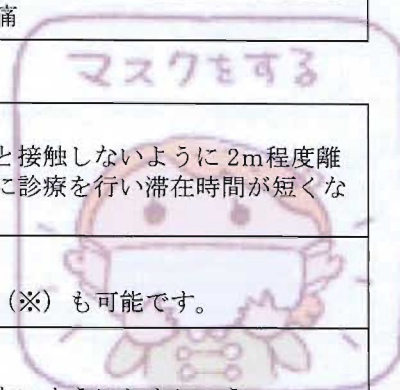
インフルエンザの流行期が近づいてきました。毎年、多くの医療施設で集団感染が報道されています。このような事態を避けるためには、流行前から感染対策を強化しておき流行期に備えることが大切です。

■インフルエンザの概要

感染経路	飛沫感染および接触感染により感染する。 ◆飛沫感染：感染者が咳やくしゃみをしたときに発生した飛沫と一緒にウイルスが飛び散り、別のヒトがそのウイルスを口や鼻から直接吸い込み感染する。 ◆接触感染：感染者が咳やくしゃみをしたときに、押さえた手でドアノブやスイッチなど周りの物に触れ、別のヒトがその部位を触りその手を介して口や鼻の粘膜から感染する。
潜伏期間	1～3日間程度
症状	発熱・頭痛・咳・鼻水・全身倦怠感・筋肉痛・関節痛

■医療施設における感染対策のポイント

患者の隔離 (外来)	インフルエンザでの受診を疑う場合 患者さんにサージカルマスクを装着し、他の患者さんと接触しないように2m程度離れた場所で待機していただきます。可能な限り優先的に診療を行い滞在時間が短くなるよう配慮しましょう。
病室(入院)	入院は原則個室とします。 ただし、複数名の患者が発症する場合はコホート隔離(※)も可能です。
マスクの着用	◆咳やくしゃみのある患者さんには マスクを着用していただき、周囲に飛まつが拡散しないようにしましょう。 医療従事者も咳やくしゃみのある患者さんに接するときは、サージカルマスクを着用するようにしましょう。
手指衛生	◆手指や公共物を介した接触伝播を避けるためには 患者ごと、処置ごとの手指衛生が重要です。簡便なアルコール性の手指消毒剤を有効活用し、手指衛生に努めましょう。 ◆頻回に手の触れるドアノブや電話やパソコンなどは、こまめに環境清掃を行いましょう。
ワクチンの接種	医療従事者のワクチン接種を推進しましょう。
面会の制限	流行期の面会は可能な限り最小の範囲とし、幼児・高齢者の面会は避けましょう。



※コホート隔離：病原体ごとに行う集団隔離

編集後記

広報室 M

先日、神戸のほうでインド祭りのイベントがあったので行ってきたのです。会場は海の近くということもあって夜になると肌寒いのですが、多くの屋台やステージ・イベントがあり、インドな熱気に溢れていました。屋台の前には販売担当のおじさんがいてガンガン話しかけてきます。雰囲気の流れ、話を聞いていると

奥からお姉さんが出てきて注文用紙とペンを手渡され、自動的にカレーセットを注文していました。インド人商魂のたくましさを垣間見た秋の夕暮れでした(笑)。



東住吉森本病院 地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ  
(地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス：m\_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

【受付時間】 平 日 9：00～20：00

土曜日 9：00～17：00

地域医療連携センター長 坂上 祐司

副センター長 井内 郁代